

グリーンレター
Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 魚道開通

02 フィルムの中の美幌

Vol.321

2024/03/01



町田善康 《イスカとナキイスカ》

Photo 今月の1枚

イスカの嘴は、先端が交差しくちばしした特殊な形をしています。この交差しした嘴を使って、松ぼっくりをこじ開けて、中の種を食べることができます。実は、このイスカにそっくりな、ナキイスカという鳥がいます。翼に白い模様があるので、見分けは簡単。もし見つけたらぜひ教えてください。美幌町内で初めて確認される鳥です。(町田善康)



01 Green Column グリーンコラム

魚道開通

写真・文／町田善康

前回のグリーンレター第320号で紹介した美幌オリジナル魚道により、9つあった段差が解消され、昭和50年代以降、魚が遡上できなかった川に、再び魚が帰ってきます。一方、数十年間、段差の上流で細々と命をつないできた陸封型のイワナがいます。今回は、このイワナの話です。

世界的に見ると、北海道以北に暮らすイワナは、その多くが海と川を行き来しています。しかし、本州以南では、冷たい水を好むイワナは、冷水の流れる河川の源流にとどまり一生をおくります。これは、源流から下流に下ると水温が高く、生きていけないことが原因です。

ただし、本州にいるイワナも、ずっとずっと昔、寒冷な気候の時（過去の氷期）には、海と川とを行き来していて、気候が暖かくなるにしたがって源流域に閉じ込められたと考えられてい

ます。つまり、壮大な地球の歴史の中で、生み出された魚なのです。

偶然にも、美幌町内の川では、壮大な地球の歴史に逆らって、人間がつくった段差によって、川の上流に閉じ込められた陸封型のイワナが出現しました。今回のように、数十年も命をつないでいるというのは、北海道では本当に珍しいケースです。

そこで、このイワナたちの遺伝子や、体の色形、寿命などできる限りの情報を集め、調べていきたいと思っています。そして、これから、魚道によって、再び下流から遡上してきたイワナと、川の上流に閉じ込められたイワナたちが、交わることで、どのような変化が生じるのか気になっています。

フィルムの中の 美幌

写真・文／八重柏誠

特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」開催まであと1ヶ月を切りました。このコラムでも定期的に紹介している、昭和時代初期に撮影された9.5mmフィルムについて、今回の特別展でできる限り紹介したいと考えています。

展示資料のイチオシである9.5mmフィルムは、大正11（1922）年にフランスのパテ社が発売した個人映画向けのムービーフィルムです。日本では、大正13（1924）年に輸入が始まったといえます。美幌町では、医師の谷内九郎氏が昭和時代初期に撮影したのが始まりとされ、その影響を受けて、町内で撮影を楽しむ人々が現れたといえます。戦前には「北陽カメラクラブ」が設立され、撮影会なども行われていたようです。博物館には、9.5mmフィルムのカメラが1台収蔵されています。ゼンマイ式で、戦前・戦中の美幌

町の様子を撮影するのに活躍したと思われる。

博物館には現在、31本の9.5mmフィルムが収蔵されており、うち2本が市販の映画フィルム、29本が町内外を撮影した映像フィルムとなっています。特別展では、町内で撮影された映像を中心に展示します。美幌市街地や農村の風景、スポーツを楽しむ人々、そして戦時中の美幌町の様子などが撮影されています。これまで、^{わず}僅かな写真と当時の人々から聞き取った証言記録を中心とした町の歴史に動画の資料が加わったのは、画期的なことだと思います。

9.5mmフィルムによって、町の歴史書にほんの数行だけ記録されていた事件・事故が、映像記録として^{よみがえ}甦りました。貴重な映像資料の数々をぜひご覧ください。特別展は3月23日から始まります。



Exhibition 展示

企画展「冬季作品展」

3月3日(日)まで

ロビー展「ひなまつりとひな人形」

3月3日(日)まで

特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」

3月23日(土)～10月20日(日)

第3展示室展示替えのお知らせ

4月2日(火)～7日(日)は観覧できません。



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

プチ工房「草木染めのコットンバック」

3/15(金)、16(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 母で作業
最終次でき

美幌博物館1階 講座室・600円

講師/城坂結実(美幌博物館)

対象/どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

申込み/申込み不要

博物館講座(総合編)「私たちのふるさと情報」

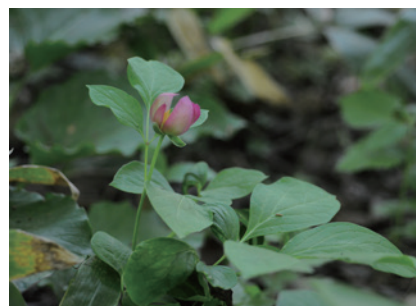
3/23(土) 10:00-12:00

美幌博物館2階 視聴覚室

講師/野口潤氏(美幌高等学校)、美幌博物館学芸員

対象/中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み/不要です。直接会場へお越しください。



送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、お手数ですが美幌博物館までご連絡ください。



Tweet つぶやき

新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行しているということで、長女がコロナ、次女がインフルエンザに感染しました。私はなんとか逃げ切ったと思いますが、知らずに免疫だけでもついていたら良いなと思っていますところ。 (八重柏誠)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

